

2. 今回の試算で新たに取り組む課題について

今後の新たなエネルギーベストミックスを検討するためには、今回の試算では、以下の3つのことに、新たに取り組む必要があるのではないか。(=今回の試算における3つのチャレンジ)

(1) **対象電源の拡大** [従来の対象電源:原子力、石炭火力、LNG火力、石油火力、一般水力]
従来、試算していた電源以外の再生可能エネルギーやコージェネレーションについても、モデルプラントを設定することで、できる限り、類似の条件で発電単価を算出

- －太陽光
- －風力(陸上、洋上)
- －小水力
- －地熱
- －バイオマス
- －コージェネレーション

(2) **対象費目の追加・精査** [従来試算での対象費用:資本費+運転維持費+燃料費]
従来の試算では、発電コストとしてカウントしていなかった費目を発電コストとしてみなすべきかどうかを検討したり、さらに精査が必要と考えられる費目の内容を検討

- －政策経費
- －原子力バックエンド費用
- －原子力の将来的なリスク
- －CO₂対応経費
- －系統安定化費用 など

(3) **将来に向けての試算** [従来試算:試算時稼働開始のモデルプラントのみ]

将来の動向を把握するために、試算時のモデルプラントのみならず、2020、2030年に稼働を開始するモデルプラントを想定し、その時点でのコスト加算要因と減算要因を勘案し、試算

- －技術革新
- －燃料費
- －CO₂対応経費
- －系統安定化費用 など

今回の試算の対象とする発電コスト(案)

従来の試算は、専らココ!	原子力、石炭、LNG、石油、水力	再生可能エネルギー	コージェネ／燃料電池	揚水／蓄電池	省エネ製品
	○	○	○	○	○
現時点でのモデルプラントの発電コスト	○	○	○	○	○
2020、2030年のモデルプラントの発電コスト	○ (上記の現時点での発電コストに、コスト加算要因及び減算要因を積み上げて推計)	○ (上記の現時点での発電コストに、コスト加算要因及び減算要因を積み上げて推計)	△ (可能な範囲で推計)	△ (可能な範囲で推計)	×
有価証券報告書方式	○	×	×	×	×

(参考) <電源とその特性>

電源特性	ベンチマーク	再生可能エネルギーなど
ベース	石炭火力、LNG火力、原子力、一般水力	地熱、小水力
ミドル	石炭火力、LNG火力	風力、バイオマス発電、コージェネレーション、燃料電池、省エネ製品
ピーク	石油火力、揚水	太陽光

○ベース: 常にほぼ一定の出力で運転を行う電源

○ピーク: 電力需要の変動に対応して稼働し、主としてピーク時に必要な供給を行う電源

○ミドル: 両者の中間的な役割をもつ電源

* コージェネレーション、燃料電池、省エネ製品については、需要家の電力の使い方によって、電源としての特性が変わる

* 風力、太陽光については、天候にも左右されるため、必ずしも需要の変動に対応できる電源ではない